

「中世日本の繡仏における女性の存在」

講師: キャロリン・ワグーラ 氏

Ms. WARGULA, Carolyn

(米国 / 国際交流基金日本研究フェロー)

繡仏(しゅうぶつ)とは刺繍で表した仏像のこと。古代から女性特有の作善であり、有名な作品としては聖徳太子の死後に妃の橘大郎女(たちばなのおおいらつめ)が制作した天寿国繡帳や北条政子が源頼朝の菩提を願うために制作した繡法華曼荼羅などがある。鎌倉時代に入ると繡仏の制作が飛躍に増え、大半が阿弥陀三尊来迎図などであるところから浄土信仰に関わりを持っている作品だと思われる。繡仏は追善や供養などに使用された礼拝像が多く、亡き人への思いがこめられた作品としても興味深い。(キャロリン・ワグーラ)



キャロリン・ワグーラ氏

米国出身。ピッツバーグ大学博士課程。専門は美術史。国際交流基金日本研究フェローとして2018年8月に来日。現在、国際日本文化研究センター(日文研)にて「仏陀の具体化: 日本の繡仏における女性の存在」をテーマに研究を行っている。



刺繍大日如来像
(所蔵・画像提供: 細見美術館)

日時: 2019年2月15日(金曜日) 18時より

(講演は約60分。講演の後、質疑応答の時間があります。最長20時まで)

会場: 京都市国際交流会館 kokoka1階 第1・第2会議室

京都市左京区粟田口鳥居町2番地の1

●京都市地下鉄東西線「蹴上(けあげ)」駅 2番出口より約300m(徒歩約6分)

入場無料 事前申し込み不要 先着40名 ●日本語での講演です(通訳はありません)

問い合わせ先: 国際交流基金京都支部

電話: 075-762-1136 (受付時間: 月~金 10時~17時)

京都市左京区粟田口鳥居町2番地の1 京都市国際交流会館3階